

ひと

仕入れですべてを好循環に

ポラスタウン開発の
事業部長に就任 板倉 秀樹さん



ループだけ 果た中央住宅の品川典久に、戸建て分譲分野では企画設計・施工、販売する6系統の子会社・組織がグループ内での

めて自問自答を繰り返す。その答えを見つけるには、「自分自身が一から勉強する気持ちを持ち続けて、40人の社員と互いに仕事を高めあっていくことが近道。皆で考え抜いた、皆が納得のできる住宅を消費者に届けなければならぬ」と抱負を語る。

顧客の生の声を常に企画部門や設計部門にフィードバックし、顧客のニーズにこたえられる商品の企画、開発を営業の立場からも支えていくという意識は人一倍。こうした仕事に対する真剣な姿勢が高く評価されての人事。年間160戸を分譲する子会社の全事業を取り仕切る大役を任された。

それと並行して、「土地の仕入れから企画設計、施工、販売、更には人材育成やマネジメントに至る会社のすべてを好循環に導いていかなければならない」と覚悟を決めた。

ポラスグループの戸建て分譲事業で、営業責任者を任されていた中央住宅・埼玉事業所長から、グループ会社で同じ戸建て分譲を主力事業に位置付けるポラスタウン開発のナンバー2に抜擢された。42歳の若き事業部長が誕生した。戸建ての注文建築と分譲を事業の両輪に位置付けるポラス

る。その中で最も供給戸数が少なく、事業計画の進捗よくも芳しくない状況が続いていた同社を軌道に乗せることが板倉氏に与えられた役割だ。

これまで営業一筋だったところに、前任者の退職に伴ってめづってきた人事異動。「このチャンスを生かせ」と営業の仕事を教え込

着任から3カ月が経ち、いまだ期待と不安が入り交じるものの、常に先を見据える。今、最も気がかりになってきたことは、当面の用地の手当て。「土地、求む」が頭から離れない。

(市川佳之)